

- 「王秋」は(独法)果樹研究所が育成した良食味で豊産性の晩生品種。
- 平成17年以降、県内で果肉に褐変状斑点が入るコルク状障害の多発生が問題となり、商品クレームが発生。生産部と県園芸試験場、大山普及支所で連携し、実証試験を行い、**土壌改良が最も有効であることを実証**した。
- 平成24年にもコルク状障害が多発。これを全樹調査・非破壊センサー選果および、販売先へのコルク対策実施PRにより問題を抑えた。**産地の王秋販売額が安定、品種普及が進み、県内他産地への波及効果を生んでいる。**

具体的な成果

1. 園芸試験場と連携し、断根する**土壌改良がコルク状障害の発生を抑える**ことを全国に先駆けて実証。障害対策を確立。



写真：コルク状障害

2. 大山地区だけで行われていたコルク状障害調査は、問題となった平成24年より**鳥取県全県での取り組みに拡大**。



写真：コルク状障害の全樹調査

3. **大山の王秋ブランド**が定着。
 - コルク状障害対策の実施PR等、販売上の対策を実施し、**クレームが減少**。
 - 全国で初めて王秋の非破壊センサー選果が実施。

4. **13年前から導入された新品種「王秋」の栽培が定着、面積が漸増**
(平成21年 1.1ha→平成25年 2.1ha)
 - 王秋の栽培体系が概ね確立。

5. 平成24年大山果実部内の品種における10a当たり販売額は平均84万円に対し、王秋は137万円となり、**販売力の高い品種であることが実証**。

普及員の活動

1. コルク状障害の原因究明と対策技術の確立
 - 王秋の**コルク状障害発生要因の調査**、コルク状障害の発生園地の調査、コルク状障害発生の多い樹体の結果部位の検討、摘心処理、**土壌改良等技術対策の検討**(平成17年～18年)。

2. 産地を挙げた王秋の栽培・販売対策
 - 平成17年から**王秋コルク状障害全樹調査**を開始し、25年まで継続実施中。
 - 王秋栽培指導会実施(平成17年～25年)。
 - 産地をあげて対策に取り組んでいる状況を**コルク状障害低減PRチラシ**として販売関係先に配布(平成24年～25年)。
 - コルク状障害の非破壊選果設定の支援**(平成24年～25年)。
 - 王秋栽培マニュアルの作成**(平成25年)。

普及員だからできたこと

1. コルク状障害対策試験の圃場設置と検討、栽培マニュアルの作成など**試験場と生産部の接点になる仕事が可能**だった。
2. コルク状障害対策PRチラシ、非破壊選果機設定支援など、他機関が入りにくい**出荷販売対策にも支援が可能**だった。